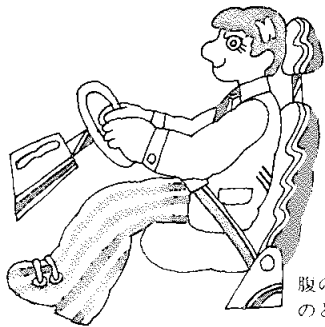


★ これだけはぜひ守りましょう! ★

安全運転のために

★腰ベルトは

いっぱいひきだして腰骨の位置にピッタリと装着しましょう。



腹の位置にかけると万一のとき身体にくいこみ危険です。

★ヘッド・レストの位置は

ヘッド・レストとの間にはぎりこぶしの幅以上あけないようにしましょう。

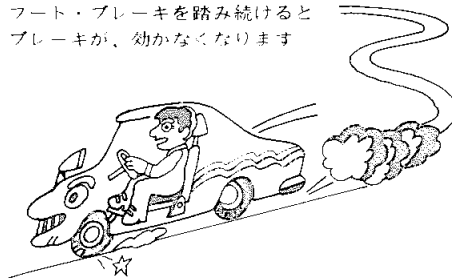


ヘッド・レストとの間隔が多いと万一のとき危険防止に役立ちません。

★長い坂道を下る場合は

エンジン・ブレーキを活用しましょう。

フット・ブレーキを踏み続けるとブレーキが、効かなくなります

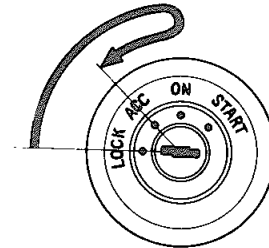


エンジン・スイッチをLOCKの位置にしないでください。
ハンドルがロックされているとハンドルがきれなくなり危険です。

★エンジンを停止して移動する場合は

(けん引される場合など)

エンジン・スイッチは一度ONにしてからACCの位置にしましょう。

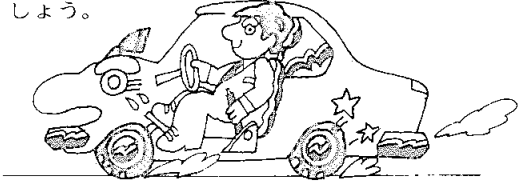


LOCKの位置にして万一ハンドルがロックされているとハンドルがきれなくなり危険です。

故障しないために

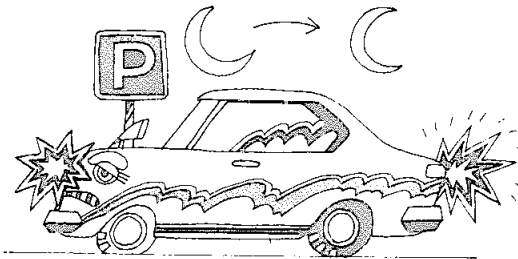
★パーキング・ブレーキ・レバーは

走行する前に必ず確実にもとの位置までもどし、インジケーター・ランプが消灯するのを確かめましょう。



ひいたまま走行するとひきずりを起こしブレーキが効かなくなります。

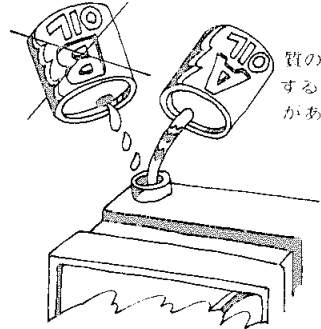
★エンジンを停止してランプ類を使用するときはバッテリーは完全充電でも、エンジンが停止していると消耗がはげしいものです。パーキング・ランプ、ハザード・ウォーニング・ランプなどは必要以外には、使用しないように。



長時間使用はバッテリーあがりの原因になります。

★オイルの補給は

同品質かまたはそれ以上の品質のオイルを使用しましょう。



質の異なったオイルを補給すると性能が低下する恐れがあります。

★寒冷時になる前にラジエーターには

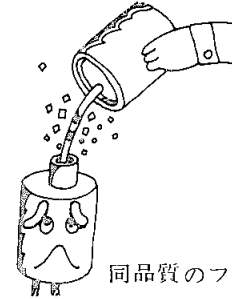
(不凍液の注入の項目参照)

気温に応じた適当な濃度の不凍液またはロングライフ・クーラントを入れましょう。

ただし、ロングライフ・クーラント注入済みの車両は入れ替える必要はありません。

★ブレーキフルードを補給するときは

(点検のしかたの項目参照)

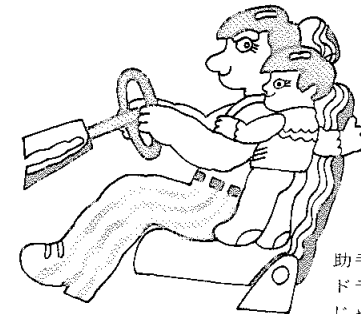


同品質のフルードを必ず使いましょう。なお、タンク内にゴミがはいらないように十分に注意しましょう。ゴミがはいるとブレーキは効かなくなります。

お子様を乗せるとき

★なるべく保護者と一緒にリヤ・シートにすわせましょう。◦

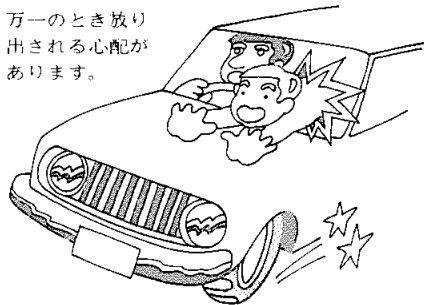
助手席ではドライバーのじゃまになり大変危険です。



助手席ではドライバーのじゃまになります。

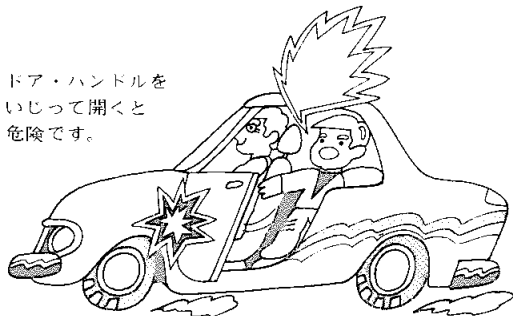
★必ずリヤ・シートにすわらせましょう。

万一のとき振り出される心配があります。



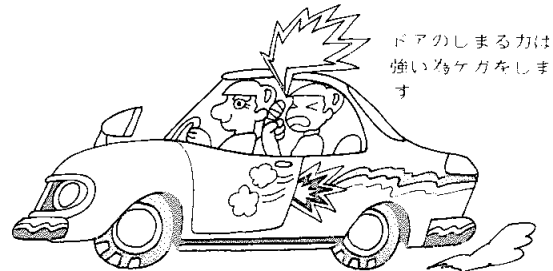
★ドア・ロックは確実にしましょう。

ドア・ハンドルをいじって開くと危険です。

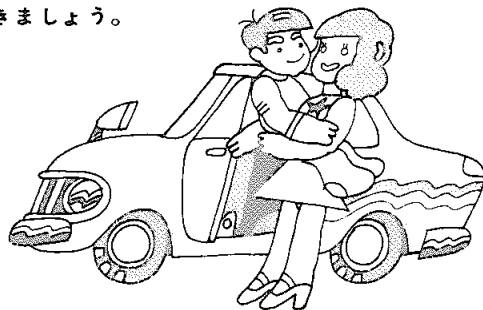


★ドアの開閉で手をはさまないようにしましょう。

必ずおとながドアの開閉をしましょう。



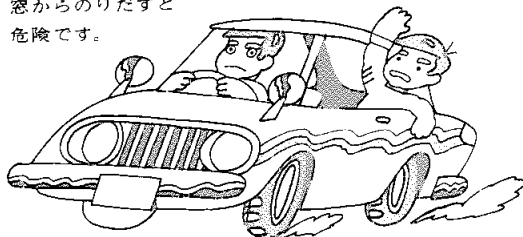
★車から離れるときは、子どもと一緒に連れてゆきましょう。



思いがけない事故が起きる場合があります。

★窓の開閉はおとなの手でしましょう。

窓からのりだと窓からのりだと危険です。



緊急処置

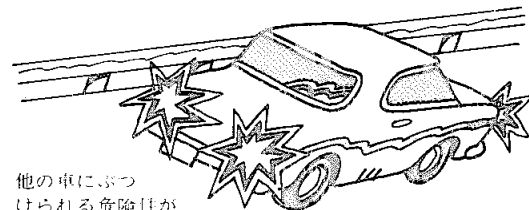
★踏切りなどで始動できなくなったときは、スターターで抜け出しましょう。(トヨグライド車は除く) それでもだめなときは踏切に装備されている非常ベルを押すか保安炎筒で合図してください。

大きな事故を起す危険性があります。



★万一、故障したら

車を路肩に寄せハザード・ウォーニング・ランプを点滅させるか、または、故障車とわかるように赤旗などを目につくように表示します。



他の車にぶつけられる危険性があります。

★遠出して万一故障し、なおせないときは
整備手帳のサービス網をご覧になって、あなたの
車の最寄りの取扱い販売店へ連絡しましょう。